コンケン市（タイ）
現地渡航レポート

作成者
高山　祐輔
（救急救命士）

コンケン市における救急医療体制の現状

タイ救急医療体制発祥の地：コンケン市

前回の現着渡航ではラオスの救急医療体制に関する調査を中心に行いました。今回の現渡航(2024年 12 月末)では、本プロジェクトにおけるもう 1 つの活動対象国であるタイのコンケン市を訪問し救急医療体制の調査を行いました。タイの救急医療体制の発祥はコンケン市といわれています。同市の救急医療体制は『コンケンモデル』として広く知られており、現在のタイの救急医療体制の基礎にもなっています。

資源管理と効率

コンケンにおける救急医療体制の特徴は資源管理にあります。コンケンの救急隊は重症患者に対応する救急隊(ALS 救急隊)と軽症患者に対応する救急隊(BLS 救急隊)の 2 つに分かれており、コンケン市内の救急隊の大部分は BLS 救急隊です。限りがある人的、物的、金銭的な公的資源の大部分は ALS 救急隊の管理に充てられており、BLS 救急隊の運用は非政府組織であるボランティア団体が行っています。ALS 救急隊と同様に BLS 救急隊も社会において大切な役割を果たしているため、BLS 救急隊の活動の質を保つために必要最低限の公的な支援を行っています。具体的には、活動資金の一部補助(定期的な活動報告と運用上の基準を遵守した場合)、救急隊員への教育制度の構築です。タイにおける救急医療の管理全般を担っている機関は準政府組織である NationalInstitute for Emergency Medicine(NIEM)です。NIEM が ALS 救急隊、BLS 救急隊救急隊員の資格制度と教育カリキュラムを策定し、管理を行っています。このように公的資源を主に重症対応の救急隊の管理に集中投下し、最低限で軽症対応の救急隊の管理にも充てることをもって、公的資源の管理を行なっています。その結果、投下した資源で得られる効果を最大化する救急医療体制の構築と維持を可能にしています。

コンケンよりもさらに資源が乏しいラオスにおいて救急医療体制を維持するためには、コンケン市の公的資源管理の経験を参考に、ラオスの実情にあった方法を模索することが必要なのかもしれません。次回はラオスボランティア救急隊が直面する課題をさらに深く掘り下げます。



非政府組織のBLS救急隊ステーション視察の様子



BLS救急隊救急車内



BLS救急隊救急車外観